

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2019 年 7～9 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲17 となり、3 期ぶりに改善した。経営上の問題点を見ると、9 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2019 年 7-9 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 23%で前回調査（2019 年 4-6 月期 26%）より 3 ポイント改善した。「好転」とした企業は 6%で前回調査（4%）より 2 ポイント改善した。景況判断 DI は▲17 となり、前回調査（▲22）より 5 ポイント改善した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2019 年 4-6 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲2 で、12 ポイント改善
- ・処理量 DI は▲5 で、7 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲5 で、11 ポイント改善
- ・資金繰り DI は▲1 で、1 ポイント改善
- ・借入難易度 DI は 7 で、同水準
- ・設備投資 DI は 2 で、5 ポイント改善
- ・従業員数 DI は 0 で、1 ポイント悪化
- ・契約単価 DI は、収集運搬が 7 で、同水準

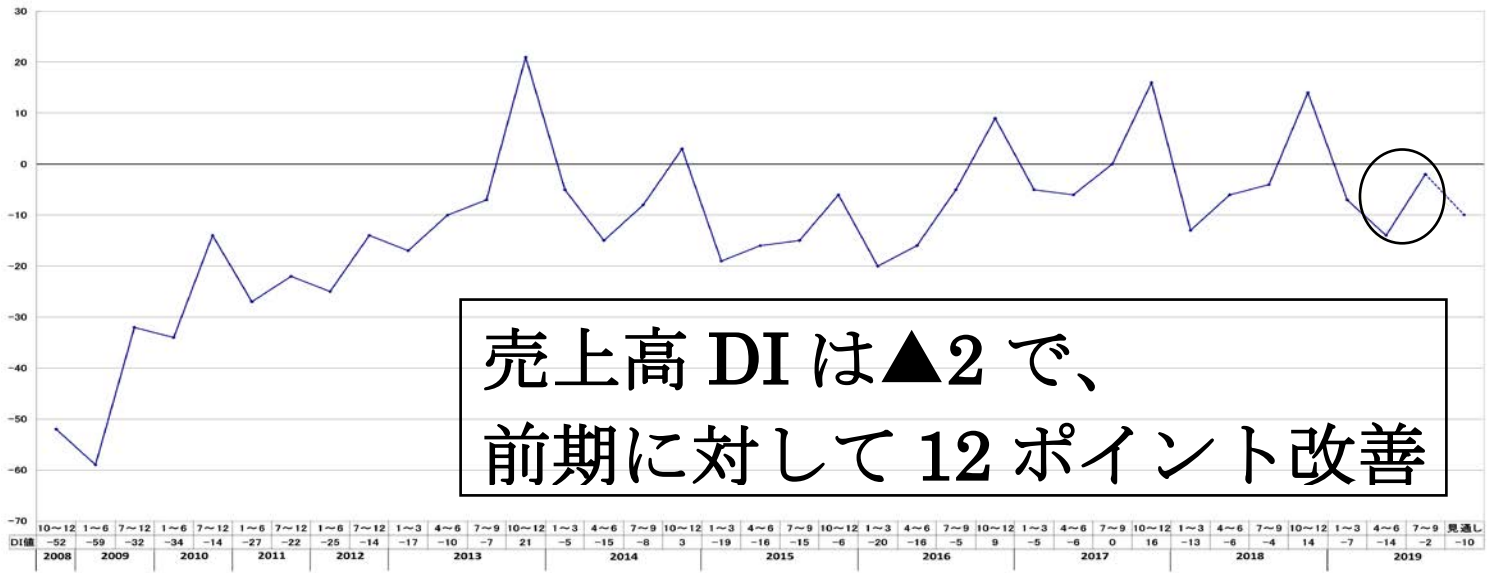
処分が 14 で、2 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲19 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 2.5%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 1.4%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.57%で前回調査（4.85%）より改善した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」25.6%（前回 22.0%）が 9 期連続で 1 位となった。

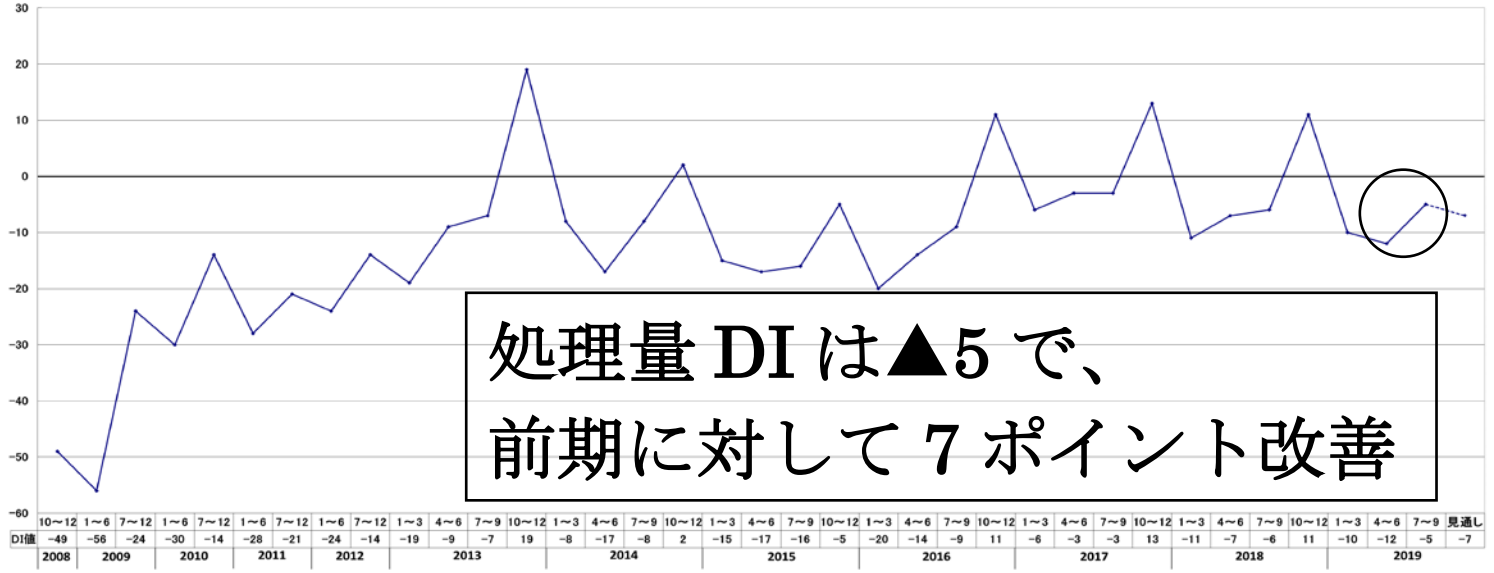
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

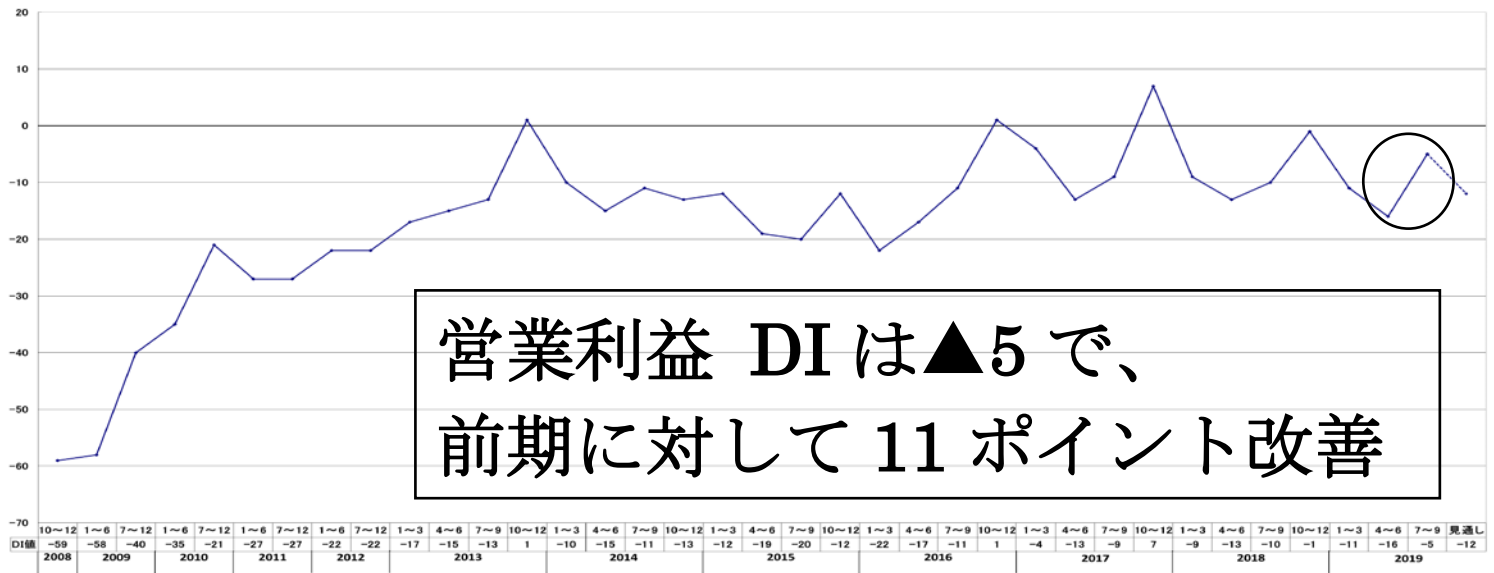
売上高DI



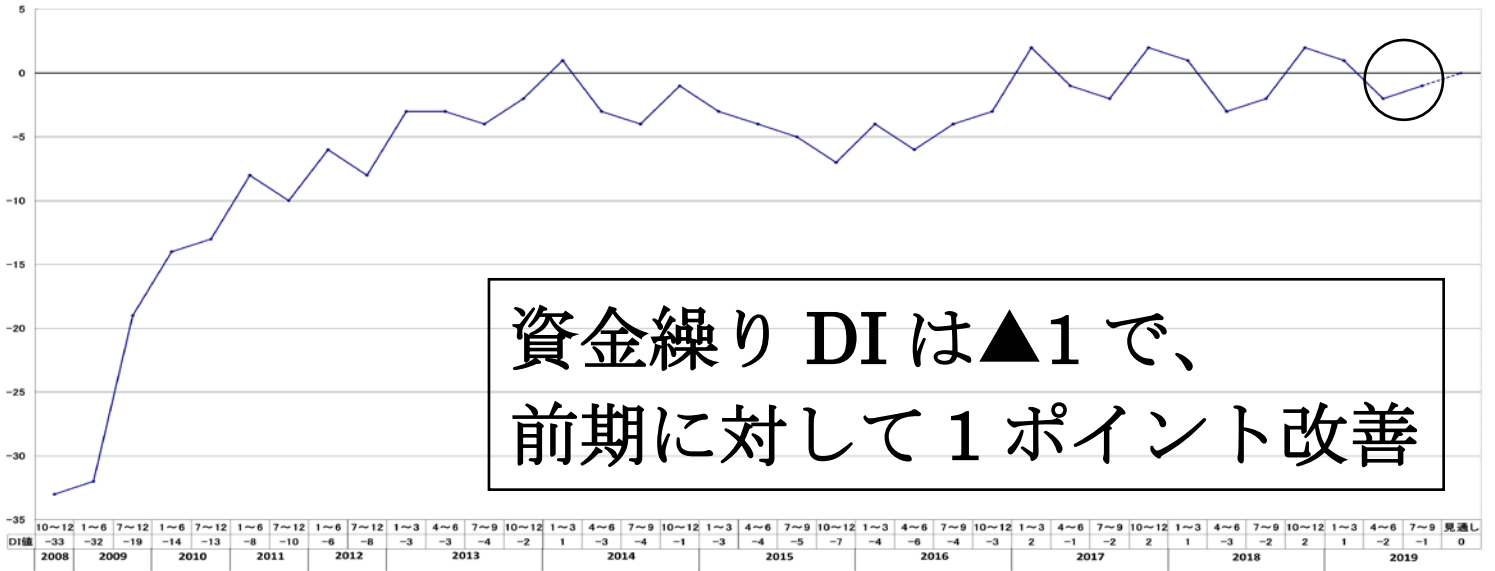
処理量DI



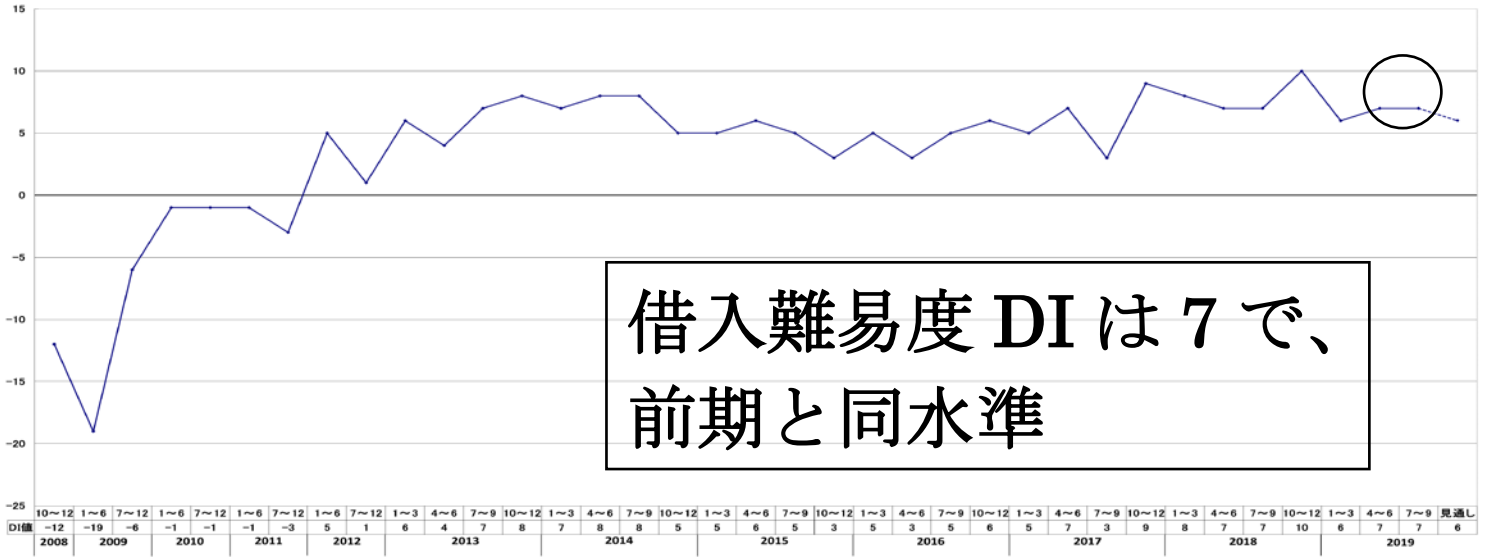
営業利益DI



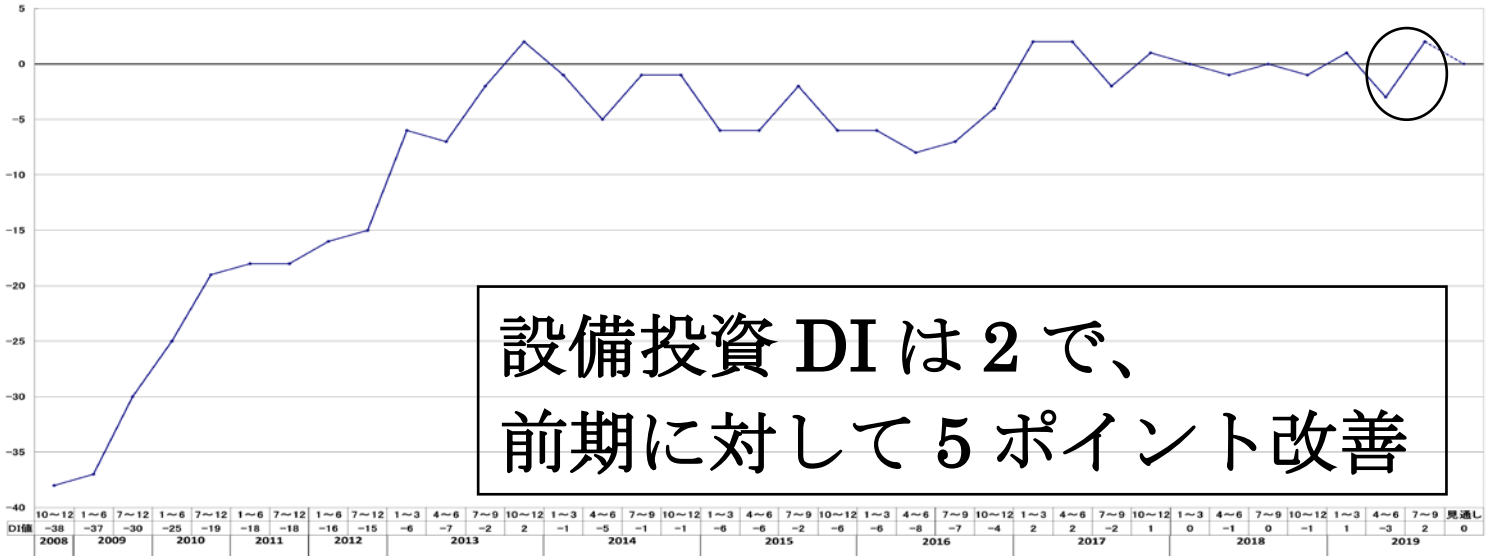
資金繰りDI



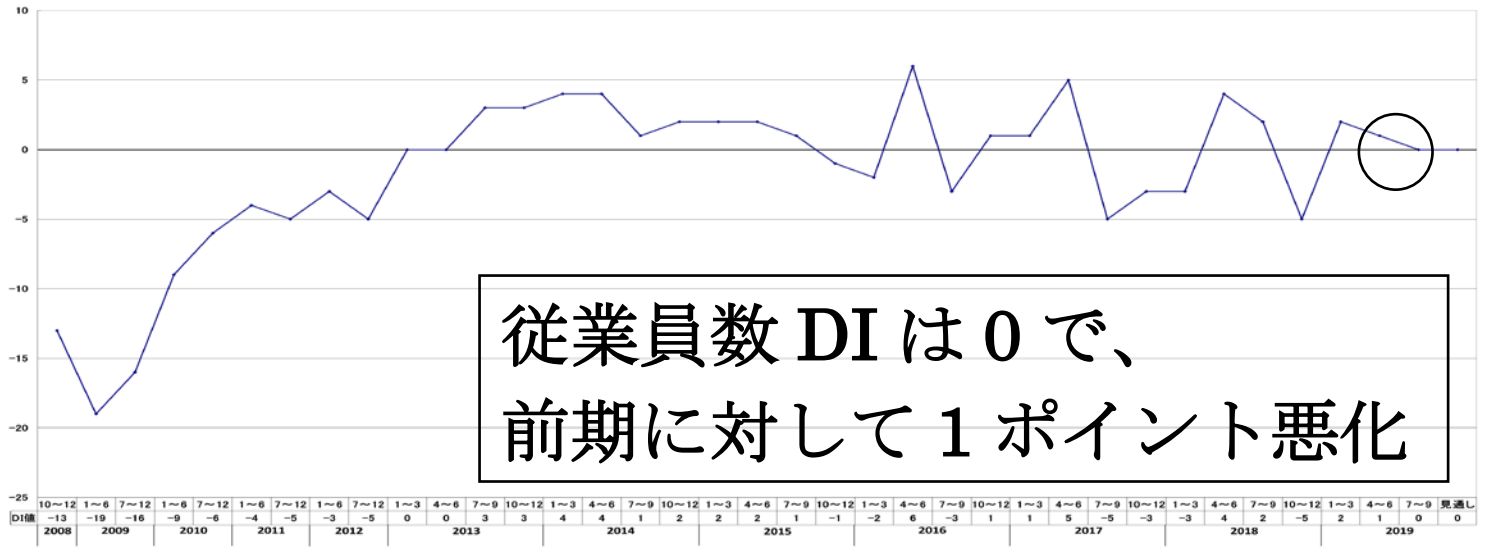
借入難易度DI



設備投資DI



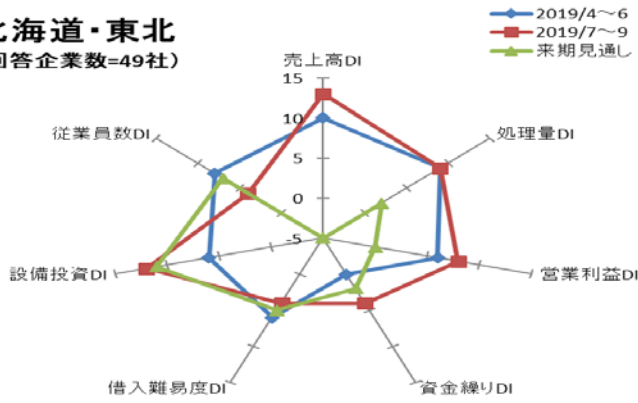
従業員数DI



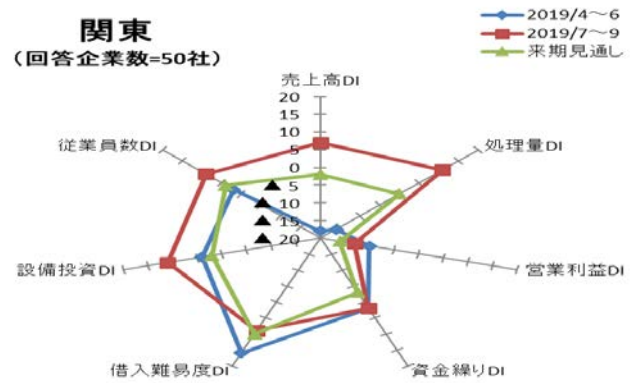
従業員数 DI は 0 で、
前期に対して 1 ポイント悪化

【地域別レーダーチャート】

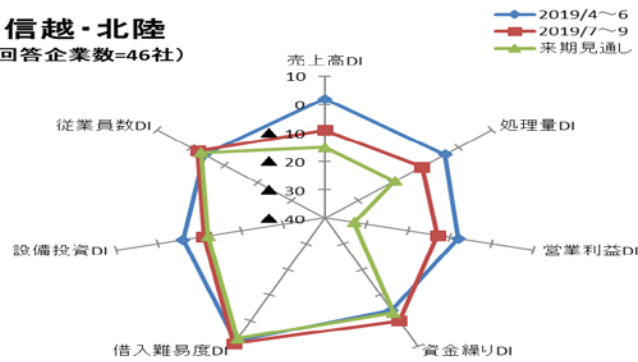
北海道・東北 (回答企業数=49社)



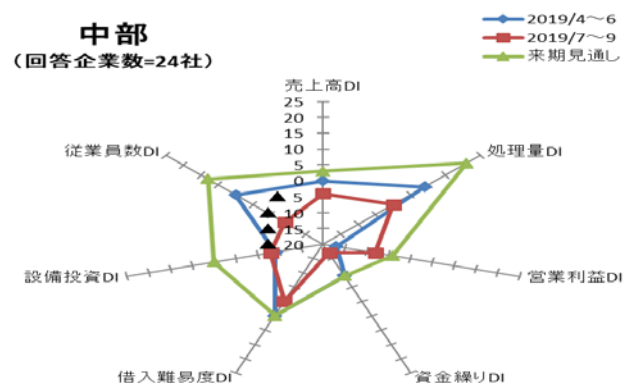
関東 (回答企業数=50社)



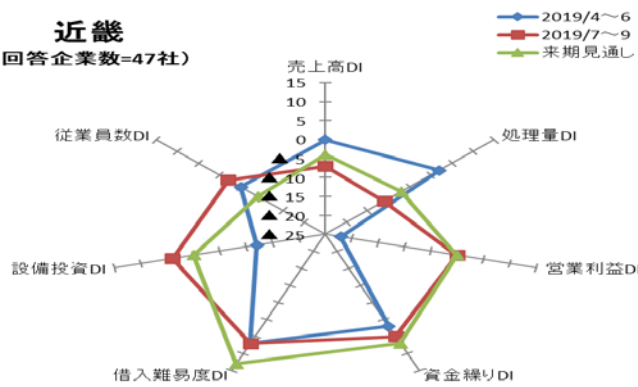
信越・北陸 (回答企業数=46社)



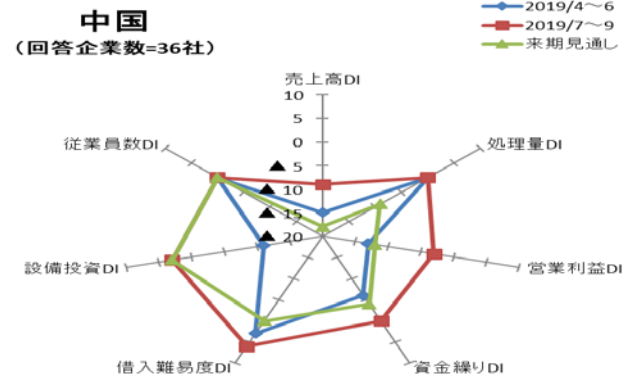
中部 (回答企業数=24社)



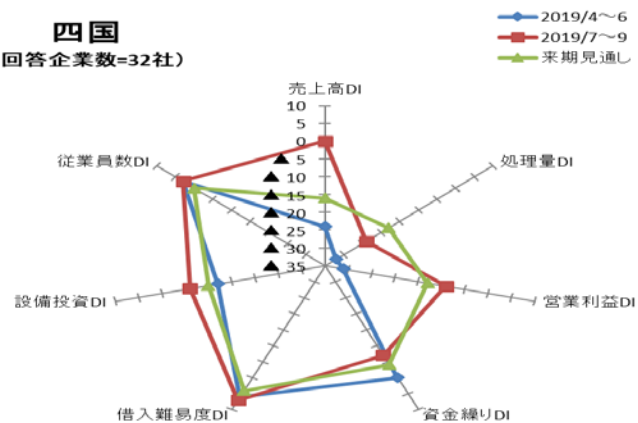
近畿 (回答企業数=47社)



中国 (回答企業数=36社)



四国 (回答企業数=32社)



九州・沖縄 (回答企業数=61社)

